



第4回 淡海の川づくりフォーラム 公開選考会 記録集



淡海の川づくりフォーラム実行委員会

1. 淡海の川づくりフォーラムとは

第4回淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

日時 2011年1月30日(日) 9:30~17:00

場所 コラボしが21 3階各会議室

内容 テーブル選考、復活選考、全体討論

テーブル選考(午前)

参加団体が3つのグループに分かれて発表します。

選考員の推薦により全体討論へ

全体討論(午後2)

テーブル選考、復活選考を経て、推薦された“きらり”と光る活動を学びながら、“川や水辺と私たちの関係”について議論を深めていきます。

テーブル選考で十分にアピールできなくても、“きらり”と光る活動には・・・

復活選考(午後1)

テーブル選考では十分探れなかった大切な活動を全体討論に推薦します。

選考員の推薦により全体討論へ

2 . 公開選考会の開催概要

プログラム

● 1月30日(日)会場：コラボしが21

9：30～10：00 開会、ガイダンス

大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。

10：00～11：30 テーブル選考発表

選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進む“キラリ”と光る活動をテーブルごとに2団体、選びます。

テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

(お昼休憩)

12：30～13：15 復活選考

時間内で自由に選考員に活動内容をアピールします。

復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度です。

13：15～13：30 スペシャルセッション - 第3回いい川、いい川づくりWSから

他府県の先進的な活動事例を紹介します。

- 1) 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク(芥川(大阪府))
- 2) 天若湖アートプロジェクト実行委員会(桂川天若湖(京都府))

13：30～16：15 全体討論

発表時間5分で選考員に活動内容をアピールします。

全団体発表後、選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。

16：15～

結果発表・表彰

全体討論の結果を発表します。

グランプリ・準グランプリ等の表彰式が行われます。

河港協会賞は全参加団体の中から選ばれます。

選考結果

グランプリ

- 針江生水の郷委員会

「生き生き湧き出る生水の針江の水は人の力を生み流域再生の道しるべとなるで賞」

- 淀大下津町自治会

「復活男の大きな熱意がこれからも大きな「どんど」の火を灯すで賞」



準グランプリ

- こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！

「官民ごちゃまぜの共感が流域全体で広がるで賞」



河港協会賞

- 白鳥川の景観を良くする会
- 親水公園づくり検討委員会



3) 応募団体一覧

(敬称略)

	団体・グループ名	代表者
テーブルA		
A-1	琵琶湖河川レンジャー有志	佐々木和之
A-2	針江生水の郷委員会	山川悟
A-3	杣川と親しむ会	森嶋克巳
A-4	大沢いきいき郷づくり委員会	杉村治
A-5	淀大下津町自治会	吉田静夫
A-6	巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会	青木繁
A-7	川チャリ隊	辻光浩
テーブルB		
B-1	NPO法人瀬田川リパブレ隊	富岡親憲
B-2	白鳥川の景観を良くする会	吉田栄治
B-3	桜谷エコクラブ	井阪尚司
B-4	山内エコクラブ	竜王真紀
B-5	長浜土木事務所 畜産技術振興センター 河港課	饗庭啓良
B-6	湖南 企業いきもの応援団	桂賢
テーブルC		
C-1	親水公園づくり検討委員会	江藤久
C-2	こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！	伊吹美賀子
C-3	NPO法人自然の恵み	小野元嗣
C-4	杉野川地域づくり協議会	藤田稔
C-5	“ 智恵だし汗かき隊 ” (水害出前講座班)	中西宣敬
C-6	TANAKAMIこども環境クラブ	安部尚子
C-7	NPO法人蒲生野考現倶楽部	森田英二
計	【参加 20 団体】 / 発表 20 団体	

選考結果一覧

テーブルA

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
A-1	琵琶湖とその周辺河川	琵琶湖河川レンジャー有志			
A-2	針江大川	針江生水の郷委員会	推薦		グランプリ
A-3	杣川	杣川と親しむ会			
A-4	八楽溜	大沢いきいき郷づくり委員会		復活	
A-5	桂川（京都）	淀大下津町自治会		復活	グランプリ
A-6	安曇川支流の北川および針畑川の源流	巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会	推薦		
A-7	県内河川全部	川チャリ隊			

テーブルB

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
B-1	高橋川	NPO法人瀬田川リバブレ隊			
B-2	白鳥川、藤間川	白鳥川の景観を良くする会			河港協会賞
B-3	佐久良川（日野川支流）	桜谷エコクラブ	推薦		
B-4	野洲川	山内エコクラブ		復活	
B-5	長浜新川	長浜土木事務所 畜産技術振興センター 河港課			
B-6	狼川	湖南 企業いきもの応援団	推薦		

テーブルC

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
C-1	愛知川に流れ込む小川	親水公園づくり検討委員会			河港協会賞
C-2	琵琶湖および草津市、守山市、栗東市、野洲市内外の河川等	こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！		復活	準グランプリ
C-3	安曇川、愛知川、家棟川、彦根城の堀 など	NPO法人自然の恵み	推薦		
C-4	杉野川	杉野川地域づくり協議会			
C-5	白鳥川	智恵だし汗かき隊（水害出前講座班）			
C-6	大戸川・天神川	TANAKAMIこども環境クラブ			
C-7	佐久良川（日野川支流）	NPO法人蒲生野考現倶楽部	推薦		

4) 大会ダイジェスト

1月30日(日) 会場：コラボしが

● 開 会

淡海の川づくりフォーラムは今回で4回目となります。第1回から第3回までは滋賀県が主催でしたが、今回から県民のみなさんとともに企画運営を行うことを目的に、淡海の川づくりフォーラム実行委員会を設置し、実行委員会主催でフォーラムを開催させていただくこととなりました。

淡海の川づくりフォーラム実行委員会の北井香実行委員長の開会宣言で、フォーラムが始まりました。ドキドキ、わくわくの一日のはじまりです。

● テーブル選考 テーブルA～C

滋賀県内・外から応募によって集まった20団体が、それぞれの発表内容から大まかなテーマごとに3グループ(1グループ6～7団体)に分かれてテーブル選考が行われました。

発表時間は1団体あたり5分で、質疑応答、テーブル・コーディネーターの進行により、約1時間30分かけて、それぞれの参加団体から工夫を凝らしたたいへん熱い報告がなされました。発表後の選考員と参加者とのディスカッションを通じ、選考を進めた結果、各グループから2団体ずつ、計6団体が全体討論に推薦されました。

● 復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に臨みました。メイン会場に一同が集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り広げる様子は圧巻です!約1時間に渡り、選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に“いい川、いい地域づくり”について議論されていました。

● スペシャル・セッション

全体討論に入る前に、特別ゲストによる活動報告です。

平成22年10月23日、24日に東京で行われた、第3回いい川、いい川づくりワークショップで受賞された、大阪府の芥川(あくたがわ)・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークと京都府の天若湖アートプロジェクト実行委員会の2つの団体をお招きし、それぞれの団体の先進的な取組を皆さんの前で披露いただきました。

● 全体討論

午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には10団体が出場しました。さすが、全体討論への推薦を得た団体の報告はどれも内容の濃いものばかり!選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

各団体の発表後は、会場全体でアピール内容について議論を行いました。活発な意見交換により、参加者同士の交流も深まり、ところどころで連絡先の交換なども行われていました。

● 表彰式

表彰式では、グランプリ・準グランプリに加え、全体討論の発表団体以外からも“きらり”と光る活動を報告した参加団体に対して、河港協会賞も賞されました。

片寄総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で、熱い一日が無事に閉会となりました。

開会あいさつ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会 北井 香 委員長

今日は寒い中、朝早くからお集まりいただきありがとうございます。

今日は雪もひどいと聞いていますが、湖北や湖西から、あと鈴鹿の山の近くから、鈴鹿の山を越えて三重県からなど、方々から集まっています。

この会は、今回から「淡海の川づくりフォーラム実行委員会」が主催ということで実施しています。この実行委員会は2008年の流域治水検討委員会住民会議のメンバーが主で成り立っている会です。



私が委員長なのですが、その経緯はまた今日1日のうちいつかに聞いていただけたらと思います。

今日の会では、発表団体の方には、ぜひ、自分たちの活動、地域、こんなところがすごいぞ、ということを**思いっきり自慢していただきます**。そして選考委員の人たちは、目を皿のようにして、この活動のほめるところ、よいところはどこか、と探しだし、ほめていただきたいと思います。

今日が、参加者みんなにとって、1年のうちで、**こんなに前向きに人をほめる日はない**ぞというような1日になりますよう、ぜひ、皆さんで「**参加**」していただければと思います。今日は1日よろしくをお願いします。

芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク（大阪府高槻市）のみなさん

みなさん、こんにちは！大阪の高槻市から来ました芥川倶楽部です。よろしくお願ひします。

私たちの大好きな芥川は淀川の右岸に流れ込む河川です。山間部から盆地、そして高槻市内のど真ん中を流れて淀川に行く典型的な都市型河川です。

私達の設立は7年前、“淀川まで遡っている鮎を市街地まで戻そう！”というのがきっかけでした。団体の構成は、市民、ボランティア団体、行政の総勢数百名になります。

私達の活動にはキーワードがあります。それは何かと言いますと「**対話**」。誰かに押し付けられるのではなく、自分たちがいいと思ったことをまず実践してみる。例えば魚道。2006年に**自分たちで土のうを積んで、魚道を作りました**。そして魚が遡ることを確認して、その後行政で立派な物を作っていただきました。昨年、**この魚道に500匹以上の魚**が上っております。



その他、一般市民を対象にしたクリーンアップ。ゴミ拾いですね。今年は千人鍋。これは東近江市の方からお借りした大きな鍋を持って、最後の打ち上げをしたというものです。去年からは川の中についても整備しています。普通、一般の取組なんかでは川の中はあまり触らない、河川管理者さんのとこやと思うのですが、我々は**川にとって必要な働きかけがあるんじゃないかと、スコップやつるはしを持ちながら**やっています。

そしてスライドの右の水ひまわり。これは琵琶湖（草津市付近）でも問題になってきました。2007年に滋賀県に入ってきたと言われていますが、芥川には2000年頃に入ってきたと言われていいます。

なぜ、水ひまわりがダメなのか？理由は大きく3つ。在来種が育たない。プランクトンも育たない。だから水が腐る。まさに生物多様性の危機ということで、私たちは2006年から駆除活動を始めています。最初は手当たり次第駆除しました。しかし、取っても取ってもなんぼでも生えてくるので、**諦めそうになったんですが何とか頑張りました**。特に冬場に駆除すると効果が高いということで、**真冬にみんなで入って取りました**。最初の参加はシニア層が多かったが、徐々に大学生も参加していただきまして、結果、河川の上流部の水ひまわりは、ほぼ駆除が出来ました。

しかし、中・下流部はものすごく生えており、「どうしようもないな」と諦めかけたのです。ですが、その時に行政、**府と市が事業として取り組むことを**

決意してくれました。我々の本気度が伝わったんだと考えております。今現在、ほぼ駆除に見通しがたったという状況です。

以上が主な活動なのですが、**なにもシンデレラストーリーではありません**。実際ものすごい苦労があります。その苦労の1つを紹介させていただきます。我々は「対話」をキーワードにしていますが、我々NPO、一般市民の立場からすると、行政が水ひまわりの駆除をする時に、本当にちゃんと雇われた人がやってくれるのかと疑がっていました。疑いの気持ちを持ちながら、**実際事業をやる時に我々も参加して、雇われた人と一緒に駆除活動をしました。その時に我々の本気度がその人たちに伝わったんですね。ものすごく丁寧に抜いてくれました。**水ひまわりは根っこごと抜かないと、また来年生えてくるんですが、それを仕事として雇われた人が、ものすごく丁寧に抜いてくれた。逆に我々はものすごく嬉しかったです。

それと、水ひまわりは白い花が咲くんですが、そこにアサギマダラという蝶々が飛んでくる。蝶々のマニアの人は、「それを残してくれ」と言うんです。実際、駆除活動をしている時に「何でこんな取ねん！」というようなやり取りがありました。ただ、水ひまわりは特定外来生物で、一株でも残したらえらいことになる。この芥川も一株から始まった、えらいことの続きなんですが、**一株の恐ろしさを何べんも説明**させていただいて、今は御理解いただいております。「対話」というものは、大変な労力を伴いますが、**対話なくしてはいい川づくり、人づくりはあり得ない**と感じています。だから、我々はこれからも「対話」でやっていこうと思っています。そして、今日この場で午前中見させていただきました。みなさん、ものすごくいい活動をされていると感じております。この場をきっかけに、みなさんとも「対話」が出来たら、素晴らしいなと思っております。以上です。ありがとうございました。

天若湖アートプロジェクト実行委員会（京都府：桂川天若湖）

みなさん、こんにちは。お隣の流域の桂川から参りました天若湖アートプロジェクト実行委員会です。今日はよろしく申し上げます。

天若湖というのは、マイナーな湖なので、どこにあるのか御存知でない方も多いと思いますが、10数年前に出来た新しい湖です。20年前に離村式が行われて、今は水が溜まっています。そこには7つの村があって、そのうち5つが水没してその全てが消えている。その事を下流の



人たちは、亀岡の人たちは知っていますが、京都市の人はほとんど知らない。それでいいのかなと思っています。

そこで、天若湖を舞台としたアートプロジェクトを2005年からやっているのですが、一貫してずっと行っているプログラムがあります。それが今日のタイトルにもなっている「**灯りがつなく記憶**」っていうものです。（スクリーンが）暗くて見にくいですが、日吉ダムの周りの山々と暗い水面に灯りが点々と見えています。実際は一面黒、黒といった感じです。目が慣れてきますと山並みが見えてきます。この灯りが並んでいるのは、杉林という集落の道沿いに家が点々と並んでいて、その位置関係を正確に測って、家々の灯りを再現しています。これを実際に見られると、遠くから来た人はきれいだなって感じる方が多いようです。地元の方が来られると、「これは、ちゃん家で、あれが阿弥陀堂だ」という話になります。その方々が出会うと、**かつてここにどんな暮らしがあったのか、どんな風景があったのか、そういうことを巡って、すっとんやり取りがなされる、**といった場面を何回か作り出してきました。

これが日吉ダムなのですが、この白い点が分布しているのは、かつて存在した村です。その家1戸1戸を座標に落として、日吉ダムの管理技術者の方々の協力を得ながら、学生達が湖面に据え付けていくということをやって、8月の2晩だけ、この灯りがともされるという形になっています。この下には、こういう村があったと、どんな村があってどういう暮らしがあったのか、ということ伝えていくべく、本を作ったり、同時にパネル展をしたりやっています。

きっかけとしては、2003年に日吉ダムの新しく出来てしまった湖面を、市民がどのように使うようにしたらいいのかという湖面利用に関する意見募集が出来ないかということで、桂川流域ネットワークという団体が市民に意見集約をかけたんです。アイデアコンテストです。その時に、京都造形芸術大学の学生が、今やったそのままのプランを提示してくれました。恐らく**すごく美しいものになるだろう、**

色々な人の思いの共存になるだろうということで、どうやったらいいのかわからないうちに、NPO 法人と河川団体が一緒に話をして、転がりだした。転がりだして、今も続いているということです。学生の1つのアイデアから始まりました。**新しく生まれてしまったこの湖を市民がどのように活かしていくのか、そこでどう生きていくのかという問いから始まった**わけです。

他にもいろいろやってきておりますので、手短にご紹介させていただきます。「灯りがつなく記憶」というインスタレーションを中心にしながら、いろいろな事をやってきました。水没された集落に暮らしていた方々に、市芸大学生達がインタビューによるドキュメンタリーを作ったり、地元の方をお招きしてお話を伺ったり、当時のおうちを見せていただいたり、その後に先ほどの灯りを見に行ったりしました。これは、独立して動き始めましたが、保津川の伝統的な筏を、かつてのいかだちさんに習いながら復活させるということもしました。集落の復元模型を作ったり、色々なことをやっております。実際に関わっているメンバーは、桂川流域の各所に仲間がたくさんおります。芸術大学として市立芸大、京都造形芸術大学、河川に関わる大学として摂南大学のグループ、技術人として日吉ダム管理事務所の皆さんにも多大なる御協力を頂いております。地元実行委員会の方々とか、亀岡盆地で活躍されているいかだちのグループ、あるいは保津川下りの船頭さんのグループなんかも関わってくださっています。

日吉ダムは出来て20年のダムなんですけど、京都市でもほとんど知られていない。そこにどんな犠牲があったのか、どんな暮らし、文化があったのかということもあまり省みられていません。上下流の相互理解、合意形成が必要だという時に一体何が必要なだろう。集まってディスカッションする場合は今たくさん作られていると思うんですが、**直感的にストンと分かる、あーそうだったのかという感じが分かち合える方法**、他にも色々あるんじゃないかと思います。その1つとして、風景と一緒に見て、こんな固有の物があったのかと分かち合えるような、そういう場が作れたらというのが、このアートプロジェクトの1つの考えであります。

これを実際見ていくと、いろんな言葉が風景を見ながら交わされるわけです。京都新聞に感想をお寄せ頂いた方がいらっしゃいますので、読み上げさせていただきます。

2008年に南丹市日吉町にお住まいの立花たつ子さんという方が京都新聞に感想をお寄せいただきました。その文章を読ませていただきます。

「灯りの記憶・・・先日、地元の日吉ダムで行われたイベントを見に行きました。灯りがつなく記憶といい、ダム湖の湖面に灯りを浮かべ、水没した集落を一夜限りで再現しようというものです。ヘルパーの仕事で訪問する先のおばあさんが、その集落の出身で、折に触れて村の思い出話をされます。6年前に引っ越してきた私は、水没した村の事は何も知りません。満天の星空に柔らかな上弦の月がかかり、しんと静まった暗いダム湖にぼつぼつと白い光が見えます。まるで、本当に家の灯りがついているよう。その1つ1つの灯りの音に、かつては人々が笑い、泣き、暮らしていたのです。

おばあさんが子どもの頃に遊んだ、大きな柿の木は今も湖底に眠っているのでしょうか？ **その夜、そこに住んでいた人達の記憶にしか残っていない村の姿を見た**気がします。心に残る夏の夜の催しでした。」

というような感想を新聞の方に寄せてくださった方がいらっしゃいました。これに、私達はたいへん感激したわけです。アートプロジェクトにはどのような感想を持っていただいても結構ですし、また色んな意見や感想がここから生まれることが望ましいと思っていますが、私達の思っていることが真っ直ぐ伝わっている所もあったんだなって思いました。

今、特に思っていることがあります。天若湖アートプロジェクトは、初年度は下流からの仕掛けプロジェクトという印象を私達自身も思っていました。**地元とちゃんと関わることが出来るか、地元とは何なのか、という問いがいつもあって**、それがちゃんと出来ているのだろうかと常に考えていました。考えるにしたがって、だんだん難しいなあと思い始めたのが、一番地元だと思っていた部分がもう既に沈んで無くなってしまっている。これから関わっていく地元、今ある地元というのは、むしろ天若という所とはあまり関わりがないような部分もあったりします。もう1つ、下流にいる我々、流域の市民が単に風の人として、ふっとここに流れて行って立ち去っていけばいいのか、おそらくそうではなくて、天若という場所、天若湖がまさに当事者なんだという部分がある。**むしろ天若湖は、桂川の下流に住んでいる人間にとって、地元として生きなきゃいけない場所なんじゃないかと、この3つの地元を踏まえながら、地元とよそ者という枠組みを越えていくようなことが、これからやっていけたら**なって思っているところです。

今年度、2011年度は8月6、7日を予定しております。まだ正式決定ではないんですが、この日になると思います。桂川流域、お隣の流域になりますけれど、桂川の疎通能力をどうすることが、宇治川の方の色んな河川の整備にかかってくると聞いております。お互い関わりのあるところですので、私達はどんどんこちらの方に足を運びたいと思っていますし、皆さんも是非天若湖の方にお越しにいただけたらと思います。どうもありがとうございました。

全体討論

総合コーディネーター：福廣勝介さん

コメンテーター：嘉田由紀子さん、片寄俊秀さん、

全体選考員：大橋正光さん、栗原秀人さん、久世憲志さん、齒黒恵子さん

A 推薦 A-2 針江生水の郷委員会

【復活】A-4 大沢いきいき郷づくり委員会

【復活】A-5 淀大下津町自治会

推薦 A-6 巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会

B 推薦 B-3 桜谷エコクラブ

【復活】B-4 山内エコクラブ

推薦 B-6 湖南 企業いきもの応援団

C 【復活】C-2 こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！

推薦 C-3 NPO法人自然の恵み

推薦 C-7 NPO法人蒲生野考現倶楽部

(注：推薦 はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体)

(各団体の発表後、1回目の投票後)

スタッフ C-2 (こなん水環境フォーラム) が2票、B-4 (山内エコクラブ) が2票、A-2 (針江生水の郷委員会) が4票、A-6 (巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会) が2票、B-3 (桜谷エコクラブ) が1票、B-6 (湖南企業いきもの応援団) が2票、C-3 (NPO法人自然の恵み) が1票、C-7 (NPO法人蒲生野考現倶楽部) が2票、A-4 (大沢いきいき郷づくり委員会) が1票、A-5 (淀大下津自治会) が4票です。

福廣さん 7人が3票ずつで21票ということで集計されました。さて、4票というのが2つで2票が5つで、これは、ばらけてるといふんでしょうね。A-2とA-5はちょっと離してるって感じですが、どうしましょう。朝のテーブル選考(テーブルB)では、参加していただいた方が自分のプロジェクト以外を推薦するという選び方をしていました。これは非常にナイスで、

選ばれる側と選ぶ側が入れ代わる、巡回するっていうシステムですね。それも拍手で選んだ！これはいちばん民主的やないかと思うんですけど。

どうでしょうか？参加いただいた方で、自分のプロジェクト以外で「あれ、絶対ええで」っていうのがあったら、今の票に迷わされずに全然関係なく、おっしゃっていただけたらと思うんですが。

会場 すいません、質問でもいいですか？

福廣さん はい、いいです。

会場 針江生水の郷委員会さん（A - 2）で、“外の人 came られたことで地元の方が有意義を再実感された”という点もいいなって思いました。その他に、地元の方の変化とかあれば教えていただきたいのと、地元の方がこの活動を通してどのように変化されてるのか、地元の学生さん達も関わっておられるのかという点もお願いします。

山川さん（針江生水の郷委員会） 生水の郷のメンバーだけではなく、針江区全体もそうなんですが、やっぱり外から来られる見学者の方々が口々に、「貴重なもんや」とか「私のところにもこんながあったらいいな」とかいう話をされて、**本当に自分達がどれだけ恵まれているんだという再認識ができました。**

学生さんは今のところ、地元の学生さんよりも外の学生さんの方が、勉強という格好で来られています。それと体験という格好で来られている方のほうが、はるかに多いです。

福廣さん 外の刺激で変わっていくんですね。他には。

会場 2 先程は（発表）ありがとうございました。あれ（どんと焼き）は、左義長ですかね。実は私どもも、さっきの竹炭の件ですけど、来月草津市と野洲市の田んぼで左義長をして、その消し炭をそのまま代掻きしてもらって、そこへちょっと自噴している鉄水があれば入れてもらうという実験もします。野焼きは消防の問題がありますが、湖南4市の場合は、“野焼き”ではなく“農業資材の政策”ということで消防局長が理解を示してくれています。ですが、なかなか地域によっては（難しい）。一方、滋賀県立大学等でも、野焼きは必要と最近もっぱら声を聞くようになって来ました。（このような情報も）何かの足しになろうかと思います。

福廣さん 技術支援をやっておられるんですね。他にあのチームよかったよとか、特別セッションで出ていただいた方でもいいですよ。この辺が東京なら、バンバン意見が出てるんですけど。先生、あとどうしましょう。4票2つは決まりで、一応3つ選ぶということになってるんで、あと1つ。応援団でしゃべるか。そんなことでよろしいですか？

片寄さん コメントをもらおう！

福廣さん それで(判断が)引っくり返るかもしれませんね。では、コメンテーターは後にして、
齒黒さんからでいいですか。

齒黒さん 私が一番に思いましたのは、大沢いきいき郷づくり委員会(A-4)さんですね。私
が住んでいる所には、ため池がたくさんあるんですけども、1年に1回だけ、ため池の水質調
査をしています。すごくほったらかしで濁っているんです。けど、この大沢いきいき郷づくり
委員会さんは、**このようにため池をきれいにされていて、本当にすばらし
いな**って思って、一番にこれを入れさせていただいたんですけど。あの、そんなんじゃなしに、
どういう決め方かですか？

福廣さん それでもいいです。決め方とか一緒にいいです。要するに「**大沢を是非応援し
たい**、1票しかはいつてないけど」っていうことなんですよ。

齒黒さん そうですね。**私ともいいと思ったんですけども、それはあまりに
もちよつと(笑)**。控えさせていただこうと。ちょっと遠慮させていただきました(笑)。

福廣さん では、久世さん。

久世さん 私としましては、**小さな組織で頑張ってみるところにエールを送り
たい**ということで、3つ選ばさせていただいたところです。

福廣さん 小さい組織に。

久世さん で、次の選び方とか？

福廣さん はい、それも言っていただけると。

久世さん トップ2つを除いて、再度投票させていただくとか、そんなことは出来ないかなと思
っています。

栗原さん 今回初めて東京から来てるので、やや的外れなところがあるかもしれませんが、私は「**広
がり**」と「**繋がり**」という**2つのキーワード**で選ばさせていただきました。針江
生水の郷委員会(A-2)と大沢いきいき郷づくり委員会(A-4)ですね。やや似た感じだ
ったんですが、やはり**活動の広がり**という視点から、針江生水の郷委員会を選ばせていた
だきました。ただ、**どっちかを選ぶためにここに座らされるのは非常に酷だ**
ということ、今日も感じております。淀大下津自治会(A-5)にも、もう1票あったら絶
対入れたいと思っていたところです。

それから、次に感じましたのは、繋ぎの場ということなんですが、こなん水環境フォーラム
(C-2)。こういう発表の場ですと、大体自分たちはこんなことやってるという、自分たちの
活動自慢がどちらかというと多くなってしまおうんですが、他の人がやっている**発表の場を**

作ろうというスキームで出てきていることに、私は非常に目新しさを感じました。実はそういう意味では、A-1 琵琶湖河川レンジャーですね、これも人と人を繋ぐという活動をやっている。そういう点で、非常に違った切り口、繋ぎの場という意味で、こなんの方を代表させていただいたということです。

もう1つ、こなん水環境フォーラムを代表させていただいた思いがありまして。というのは、実は平成13,14年と滋賀県にお世話になった者として、県の職員、若い職員が色々な発表に、絡んできてくれていることに非常に嬉しさを感じました。県の若手を代表して、こなん水環境フォーラムに併せて1票を入れさせていただいた、という観点がありました。

それから、もう1つ私が入れさせていただいたのは蒲生野考現倶楽部(C-7)です。これもまさに拡がり。世代を超えて拡がる、流域を越えて拡がる活動の幅広さ、まさにそういったことに入れさせていただきました。

選び方につきましては、まさに久世さんと同じで、もう1票か2票を皆さんにちょうだいして、更に3番目を決めていくことがいいんじゃないかと思います。

福廣さん ありがとうございます。

大橋さん 私も非常に選択に苦労して、10件あるんですが、そのうちの3票しかございませんので、私なりに、入れさせてもらっています。

その中でも、こちらのA-5ですか、このどんと焼き(淀大下津自治会)。私、これに非常に興味があるんです。小さい集落の中でイベントをして、町内を1つにして。その心意気というのか、パワーというのか、気迫というのか、それらがまざまざと伝わってまいりました。近江八幡でも「どんと焼き」というのはずっとあるんです。左義長祭りも近江八幡にあります。左義長祭りは織田信長が滋賀県に入ってから出来たお祭りなんです。それ以前から、松明祭り、いわゆるどんと焼きがあるんです。地域それぞれにあるんですが、それはこちらがおっしゃった1月15日に、大体正月の飾り、しめ縄とかお札をそこで一括して燃やして新年を祝うようなことなんです。こちらさんの場合は、中をほら穴にして、中でコミュニケーションを取るとか、そういう状態をされている。このことに非常に興味があります。これからも地域の繋がりを大人だけやなしに子供も一緒にって取り組むとおっしゃった。私らも改めて子供を巻き込んだ、そのどんと焼き作りをする必要があるのかなと思ったりして、感動させてもらいました。

私もこの中で色々苦慮したんですけど、針江の生水の郷委員会(A-2)の活動については、

これは“滋賀県が特に京都や大阪に比べたらまだまだ昔の古い田舎や”と言われますが、滋賀県の中でもなお、針江は**近江の古い文化が全て残っている**という所だと思うんです。八幡でも「かわと」があったんですけど、今から思うと懐かしいなあって思います。それが全て残っている。それを次の世代、**次の世代にも文化を残していこうとされる心意気、それからまた都会の方達と一緒に文化を受け継いでいこうとされる心意気が、私はすばらしいなと思いました。**

それで、巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会（A - 6）です。トチの木の保全ということで、先ほども原価5万円ほどが都市にいったら100万円になるという話は別にしまして、やはり**何百年かかってきた地球を子孫に残していく、このこだわりが新しい発想の取り組みなんです**が、私は大事やなと。川を守るのは山からやと私も思っております。その為にも原点の山を、きちっとした大樹、保水力のある木を維持していく、そして残していく。**この大きなこだわりは大事にしていきたいな**ということで、もう**少し大きい輪になって活動していただけることを期待して**入れさせていただきました。

あと1つは、子供さんが狂言をされた、山内エコクラブ（B - 4）については感動しました。と言いますのは、子供さんが3クラブ出ていただきました。桜谷エコクラブ（B - 3）もそうでしたし、蒲生野考現倶楽部（C - 7）です。指導者も大変ですし、若い子ども達が地域を愛するということが非常に希薄になってきている中であえて、**この地域では「山内が好きや」という気持ちを、**地域の絆の中で、演劇いわゆる狂言も入れて、**きちっと次の次の世代まで受け継いでいこうと**されている。もうすでに、**事は始まっているということ**を大事にしていきたいという形で入れさせていただきました。以上です。

福廣さん では、コメンテーターの片寄先生。

片寄さん これって酷だよな。もう選びようがないです。何べんもいいますが、**これ選ばれても大したことないんですよ。大儲けするような賞がもらえるわけでもない**んです。私は第2回から、2回司会をさせていただきました。選ばれた人は、1銭にもならない賞をもらって涙してはるんですよ。参ったんですよ、**何やろか、これは！**って。すごい集まりになってきたなあって。このフォーラムすごいなあって思っております。

今日も随分悩むわけですが、淀大下津自治会（A-5）ですね。**復活男！単純にあの男に惚れた**んですわ。もう一発で入れてしまったというか。

あと2つはですね、持続性という意味で企業活動というんですか、**環境を守り、川を美しくし、そしてそれが暮らしに繋がっていく**という、そういう視点から湖南の企業いきもの応援団（B - 6）、**企業がセットでチームワークを組んでやっていこうという、物凄くすばらしい活動だし持続性が感じられました。**

もう1つは自然の恵み（C - 3）、**“あれ、ほんまかいな！”**って思って(笑)。あの黒い豆炭みたいなやつを頂いて、私も何か実験してみたいなって思います。日本人は「竹が森を喰っていく」って言うんですよ。特に九州辺りがひどくて、里山の森がだんだん無くなっていきよる、竹に変わっていく。**これを何とかしなければならぬ、みんな悩んでおります。** 建材にならないだろうか、燃料、紙にならないだろうか、色んなことをやっているのですが、今日の発表のやつは初めて聞ききました。まあ、竹炭を色々使うことをやっていますが、あんな風に団子にしてやってみる。**これが本当だったらすごい！しかもこれ、商売にして人間が食っていける！** そういう視点で選ばせていただきました。

あとは、今4票2つが突出しているの、これはこれで第1回の投票で決まったということにしてください。何べんも言いますがこれ賞をもらっても大したことないんで、ぱっと投票して決めてしまったらどうでしょう。皆さんどれも、**ここに出ていないのも含めて、滋賀県はレベルが高すぎる。** 選ぶというより、こうやって口述していることに意義があると、参加することに意義があるということで、御勘弁願いたいと思います。

知 事 今日20グループ、朝からご発表いただきました。多分それぞれ発表された皆さんは、「あっ、これも言いたかった、あれも言いたかった」というところで、悶々としてらっしゃるかと思うんです。朝、実行委員長の北井さんが「お互いに誇りを持って褒め合おうよ」と言った、そこに戻るかなって思います。本当に1つずつの御発表の**後ろにある拡がり、繋がり、そして何よりも志、その志はそれぞれに凄いなって。** 私は知事という立場ですけど、また日常様々な行政施策をやりながら、本当に職員、特に若い職員、**現場でこうやりたいなって思いながら、今までの慣例があり、また法律があり、そして仕組みがある中で、出来ない事を今日は随分入れ込んでもらって**なつて。栗原さん、どうでしょう、すごいですよね。ですから、どこにグランプリとか、どこに賞ということではなくて、**ほんとに現場で皆が立場を超えて、職員であるとか住民であるとか、あるいは企業であるとか立場を超えて、志が1つの方向に見えてきたなっていうので、とっても感激しております。** そういう

中で、酷なんですよ。酷なんです、みんな。片寄さんが言われるように、今日どこにどうグランプリがつこうか、これはまた来年へのエネルギーを皆で結集する場であるということで、あえて3つ選ばせてもらいました。

1つは、やっぱり世代を繋ぐ子ども達がこんなにたくさん来てもらってる中で、みんなそれぞれに志があるんですけど、ちょっとやっぱり昨年の竜王さまも含めてですね、あの**狂言の演技力、あれには負ける**なっていうので山内エコクラブ(B-4)に1票。昨年の大型絵本に続いて狂言というところで、1票入れさせてもらいました。

それから2つ目は、やっぱり地元系、集落そして企業。また、きちっとそれぞれのところでビジネスにしていこうというNPO系は、どこも志が1つなんですけども、やはり**滋賀を代表しながら、いつもいつも緊張感を持って毎年1万人もの方々を迎えていただいている**、針江生水の郷委員会(A-2)。今や、国際的にも受け止める、その代表であるということからして針江に1票かなと。

それから3点目は、吉田さん(淀大下津自治会(A-5))です。「こういう会合やったら、わしもっと仲間連れてきたのに」という吉田静夫さんの声が聞こえるんですが、**ふらっと来て、まさかと思いながら皆の心を掴んでしまった**。下流のまさに**上下流連携の代表のようなシンボルのような吉田さん**に是非、これからの流域自治は三川合流点が幸せになったら、上下流の対立が大きく緩和されるということで、橋下知事と山田知事とそして井戸知事と、これから上下流を繋いでいくために、吉田さんの所の淀大下津に1票ということで3票入れさせていただきました。でも最初に申し上げましたように、今日、誇りとしてお互いに触れ合った事による高めあい、そして来年のためにまたこうやって1年こういう活動して、来年こそまたグランプリとか、あるいはお互いを褒めあう場を作る、こういう場に参加していただくということをお願いいたしまして、私のほうのコメントとさせていただきます。どうもありがとうございます。

福廣さん ありがとうございます。この後、僕も一言、言わせていただきます。僕、この「どんと」と、名前よりも「どんと」言う方が分かりやすいと思って、「針江」とそれから「巨木」に入れさせてもらたんです。「どんと」と「針江」は、1人でしてるか、たくさんでしてるかで、**地域博物館**っていう感じは一緒かなって思います。「針江」の場合は、“**誘拐犯**”が**きっかけやったって(笑)**。博物館さながらやし入村料を取ったほうがええんちゃうかって思いました。

それから、こうなったら好き嫌いなんですけど、僕は源流が好きで、さっきもちょっと言いま

したが山を越えて隣と連携したいぐらいやと思ってるので、「巨木」に入れさせていただきました、

ここの方式は加点方式ではないので、という皆さんの意見もありましたので、もう4票で取ってる2つは決まり。あと皆さんに1票ずつで。1票にしましょうか？2票にしますか？4票のやつは入れないで下さいね。1票？2票？やっぱり悩むちゅうんやったら2票にしますけど。

久世さん 自分が前に入れたやつ、ダブルでもいいんですか？

福廣さん 自分が前入れたやつも入れましょう。さっき、「やっぱり（あそこがいいんや！）」っという話もありましたから。あの、自分が前入れたやつも入れて、1票か2票か？どうしましょうか？1票か2票か。それで一発で決まり。後はもう、時間のこともありますので。

片寄さん 前の1票とか2票は有効なの？有効でないの？

福廣さん 有効にしましょう。「俺やっぱりあそこにもう1票や！」といのがありますよね。

片寄さん とりあえず、4票のやつを外していただいて。

福廣さん そうですね。4つのやつ、ややこしいから外してもらいましょう。

で、僕の提案は、合算方式でいこうと思います。今、皆さんの感じ方を聞いて、「あ、これやったな」とか「迷ってたんや！もう1票入れたかったんや！」とかいうので。ここは、もう僕の権限で決めさせてください。1人1票、加点方式。選ぶのはあと1つだけです。

片寄さん 2票の方がいいんちゃうか？

福廣さん よし、分かりました！2票という意見もありますし、どうしても2つ入れたいというのもあるでしょうから2票にしましょう。

片寄さん 2票にした方がおもしろいで(笑)

福廣さん 2票にしましょう。

<選考中>

スタッフ C-2(こなん水環境フォーラム)が5票、B-4(山内エコクラブ)が3票、A-6(巨木を育む豊かな森と水源の郷を守る会)が4票、B-3(桜谷エコクラブ)が3票、B-6(湖南企業いきもの応援団)が4票、C-3(NPO法人自然の恵み)が2



票、C-7(NPO法人蒲生野孝現倶楽部)が4票、A-4(大沢いきいき郷づくり委員会)が2票。

福廣さん C-2のこなん環境フォーラムですね。ここでは未練もありますが、片寄先生のお話のように「来た人がみんな幸せなんや」と、「たまたま今日こんな結果だった」ということで、合わせて5票でC-2こなん水環境フォーラムさんが選ばれました。ただし、1番が2つ選ばれていますので、グランプリ・準グランプリと順序をつけないといかんのでしょうか？

スタッフ (困惑しつつ) 実行委員長～～！！

福廣さん 北井さん、3つ選ばれたんやけど、グランプリ2つと準グランプリ1つというのはありかっていう？最初の票で同点なんです。

北井さん ありだとは思いますが、最初に出ちゃったのがグランプリだということですか？ですけど、時間があるなら、もう少し議論があってもいいんじゃないかなって思います。

福廣さん つらあ！

北井さん 厳選された中から、またあるのかなっていう思いもありすので。どうでしょう？

福廣さん 時間的にちょっと厳しいので、ええというやつで行こうと思っていたので。さて、どうしましょう。ありは、ありですか？グランプリ2つ、準グランプリ1つっていうのは。

北井さん ありだと思います。

福廣さん ということで、普通あまりないケ-スなんですけど、グランプリ1つで準グランプリが2つというのはあり得るんですけど、ここは異例のグランプリが2つ、準グランプリが1つ。一応、得票順で上から3つということでスタートしておりますので、そんな風にさせていただきたいと思います。

片寄さん **同率優勝ってことで！**

福廣さん そういことですね。それでは、表彰式に移る前にコメンテーターの片寄先生に一言おねがいます。さっきのは選考方法みたいな感じやったので。

片寄さん **わぁーれえーはぁうーうーみのおーこおー** (歌を終えて) **さすらいました、今日は**(笑)。20の発表をいただきまして、とっても素晴らしい。私は実は全国の「いい川、いい川づくりワークショップ」の選考員もやっていますが、全国レベルでもこれ程質の高いのはあまり出てこないじゃないかと思います。**滋賀県のこのレベルの高さに驚嘆いたしました。**特に、格が違うというのが、針江生水の郷委員会ですね。ずっと昔からやっておられますから。今さらここで、**選ぶというのもおかしぐらいの格の高さ**を感じます。また、今回は残念なんですけど、山内エコクラブの子ども達。**次の世代にど**

う繋ぐかが、我々の大きい使命だと思います。一過性でイベントをやって、地域や環境が良くなるわけじゃないんですよね。どうやって次の世代に繋いでいくかということ、これから皆で考えていく。その為のフォーラムであったと思いますので、今日ここにおいでのみささま方と一緒に、次の世代に何とかいい環境を



作っていきたいし、いい日本を作っていきなと思います。私なんか、川じじ、川ガキじゃなくて。元川ガキで、今は川じじなんですけども、子どもの頃、川に人はよくつくられたなって思います。川はいいですよ。小さい子には小さいなりに遊ぶところがあるし、だんだん深みがあって怖いんですけど冒険して成長していく。そういう環境があるこの国をどうにかして守れないかと思います。そういう意味で滋賀県は、みなさん上流に住む、上流階級の皆さんばかりなんですけど(笑)。私は今、兵庫県の尼崎という所に住んでいまして、尼崎の水は滋賀県の水を頂いているんですよ。色々お世話になっております。上流社会にお住まいの方々に、上流社会として日本をリードしていく、嘉田知事を先頭に素晴らしい県民性をしっかり味あわせていただいたように思います。これからも次の世代へどう繋いでいくかということ、テーマにしていきたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

福廣さん コーディネーター特権として、三重県の久世さんには、僕がたつての希望で来ていただきました。久世さんとこ(川づくり会議みえ)は2年に1っぺんの“川のワークショップ”をやられています。これを毎年にしてもろたらええなあ、という希望も含めて、久世さんから感をお願いしたいと思います。

久世さん 三重から来ました。鈴鹿の山を越えてやってきましたけども、「川づくり会議みえ」の久世と申します。本当に今日は、福廣さんに引っ張り出していただいたお陰で、たくさんの取り組みを聞かせていただきましたし、また熱い思いもたくさん聞かせていただいて、大変ありがたかったかなと思っております。

こちらはまさにマザーレイクですが、三重県伊勢に行きますと、伊勢湾がマザーベイということになります。愛知、岐阜、三重と長野県を含めて水が流れ込んできますので、そこも同じよう

に閉鎖的な湾ということで課題を抱えております。そんな中、「川づくり会議みえ」ということで、**山・川・海の繋がり、そういった物理的な繋がりと共に、人とか地域とか色々な所の繋がりが出来ないかな**ということで、**1年おきの「川のワークショップみえ」**をやらせていただいております。

今日は暗いうちにJRに乗りまして、神部山から柘植、草津を周って、初めて一人旅で来たんですけども、明るくなった頃にこっちに着きました。山を越えたら本当に、あっちもこっちもない状況でございますので、またそういう**山を挟んだ、峠を挟んだ繋がり**もまた作っていただければなと思っております。本当に今日はありがとうございました。また今後とも、こんな会を続けていただいて、**三重の方からも交流**させていただければと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

グランプリ 「針江生水の郷委員会」

賞状、グランプリ、「生き生き湧き出る生水の針江の水は人の力を生み流域再生の道しるべとなるで賞」。針江生水の郷委員会様。あなたは、第4回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成23年1月30日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



グランプリ 「淀大下津町自治会」

賞状、グランプリ、「復活男の大きな熱意がこれからも大きな「どんど」の火を灯すで賞」。淀大下津町自治会様。あなたは、第4回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成23年1月30日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



準グランプリ 「こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！」

賞状、準グランプリ、「官民ごちゃまぜの共感が流域全体で広がるで賞」。こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！様。あなたは、第4回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動をされました。その熱意と成果をここに称えます。平成23年1月30日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



河港協会賞 「白鳥川の景観を良くする会」

賞状、滋賀県河港協会賞、白鳥川の景観を良くする会様。あなたは第4回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川と水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成23年1月30日、滋賀県河港協会会長 吉田清一。(代読)

河港協会賞 「親水公園づくり検討委員会」

賞状、滋賀県河港協会賞、親水公園づくり検討委員会様。あなたは第4回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川と水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成23年1月30日、滋賀県河港協会会長 吉田清一。(代読)

講評とメッセージ

福廣総合コーディネーターの講評

ありがとうございました。1日長いお付き合いをいただきました。下手なコーディネートにお付き合いいただきまして、ありがとうございました。午後、午前のテーブル選考のコーディネーター、選考委員の方々のお陰だと思えますし、何よりも発表していただいた、いくつものプロジェクトの発表いただいた皆さんのお陰で、一応無事、時間も来ました。総合コーディネーターの特権で、感想を一言だけ言わせてください。



僕、母性の滋賀やなあ。マザーレイクだけじゃなくて、みなさん、滋賀の方、御存知すぎるぐらいやと思うんですが、「たっぷりと真水を抱きてしづもれる昏(くら)き器を近江と言へり」という河野裕子さんの歌がありますね。母性の滋賀はこんなところにある、嘉田知事がそんなところにあると。

もう1つは、去年片寄先生が、色んなプロジェクトを回るツアーをしたらどうやっていうお話がありましたけど、僕、ここを「川づくりフォーラム」といわんと、「川づくり市」って言うたほうがいいんじゃないかと。ここに市場が集ってくる。今お米ありましたけど、そこの御当地の食べ物やとか産物を持ってきて、ほんまに市にしてしもたらどうやろうなあって、いうようなことを思いました。1日長いお付き合いをしていただきました、ありがとうございました。あと、一杯飲んでまた伊賀に戻っていきます。どうもありがとうございました。

嘉田知事より

想定外で(笑)。もう福廣さんのまとめで終わったと思っていたんですが、マルシェで食べる物も、そしてそれぞれのお互いの訪問も含めてという、新しい提案もいただきました。1年に1度、冬の七夕のようなものでございますけれども、これからまた皆さんの所で、活動を深めていただいて、また来年もここでお会いしませんか？

どうですか、今日の比良のこの後ちょうど夕焼けが、比良の慕雪。近江八景の美しい、それこそ時代を超えて、この美しさを皆さんと共有しながらまた来年お会いしたいと思います。

本当に今日は皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

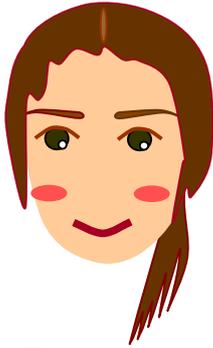


5) 公開討論会 選考員のみなさん

テーブル A

テーブル・コーディネーター

菊池 玲奈(きくち れいな)さん / 結・社会デザイン事務所



2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

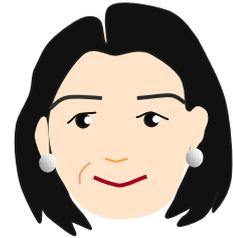
現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまなプロジェクトのコーディネートや講演などを中心に活動中。

選考員

吉岡 美佐子(よしおか みさこ)さん / 草津湖岸コハクチョウを愛する会

滋賀県生まれ。夫の赴任先のマレーシア、タイに同行、帰国後に琵琶湖のコハクチョウに出会い、平成12年にボランティアを立ち上げ活動を始める。

コハクチョウや多くの水鳥のふるさと琵琶湖の環境を守って、次世代の子供の未来へ思いを繋ぐ、環境保全啓発活動に取り組み活動中。水に係わる住民連携WS琵琶の会を新たに設立、仲間とつながりの輪を広げています。



佐藤 祐一(さとう ゆういち)さん / 滋賀県 琵琶湖環境科学研究センター 研究員



専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年からは琵琶湖流域管理シナリオ研究会の事務局として、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描き、取りまとめた。

青田 朋恵(あおた ともえ)さん / 滋賀県 農村振興課にぎわう農村推進室副参事

仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いっにおいのする方向へは猪突猛進していきます。



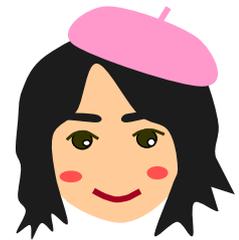
テーブル B

テーブル・コーディネーター

小丸 和恵（こまる かずえ）さん / NPO法人 子どもと川とまちのフォーラム 理事

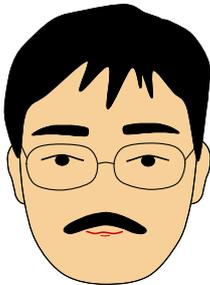
大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。京都の出版社で生活の糧を得つつ、フォーラムの世話役をつとめる。

「『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との想いから活動を続ける。果たしてそれが可能なのか…。現在も模索中。



選考員

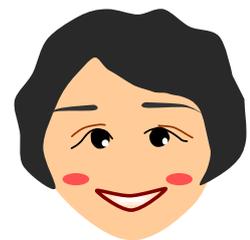
柳沼 宣裕（やぎぬま のぶひろ）さん / 桂川・淀川スイポーズ



阿武隈川支川安達太良川育ち。土地の記憶をまちづくりや防災に活かす『まちごと防災探検隊』等々の活動を展開中。スイポーズは水坊主（つまりカワガキ）や、水防をする人達（水防子）の意味。「なにが好きって、川遊び。思い出すのは洪水後の校庭がサッカー場 4 枚分の池に川って（変わって）、魚や虫やカエルの遊園地。今でも京都南部の桂川・小畑川のまわりで川遊びをしています！」。

荒井 紀子（あらい のりこ）さん / ホタルの学校 代表

22 年間のホタル保護活動を通して、新旧住民の垣根を越えることができ、8 年前、子どもたちの「ホタルを守りたい！」という願いを知り、「ホタルの学校」を開校。生きものたちに関心を寄せ、水辺に親しむ多くの子どもたちと活動中。近畿子どもの水辺交流会実行委員会のメンバー。一番大切にしていることは、地道な足元の地域活動である。琵琶湖博物館では、展示交流員として、来館者と琵琶湖の話で交流を重ねている。



三和 伸彦（みわ のぶひこ）さん / 滋賀県 琵琶湖再生課副参事



1963 年滋賀県長浜市生まれ。87 年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

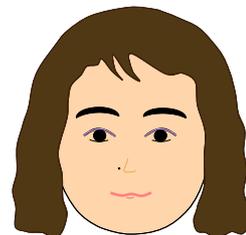
地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。

テーブル C

テーブル・コーディネーター

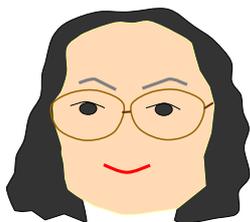
小坂 育子(こさか いくこ)さん / 水と文化研究所 代表

三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。



選考員

中井 正子(なかい まさこ)さん / おおつ環境フォーラム



大津市在住、2001年～「おおつ環境フォーラム」運営委員。「フォーラム通信」担当。昨年「おおつ環境フォーラムエコ祭り」(「親子で遊んでECOになろう」)の実行委員長。本祭りでは過去に「エコアート展」・「海外の子どもの環境絵画展」等開催。2008年滋賀県流域治水検討住民会議委員。

村上 悟(むらかみ さとる)さん / NPO法人 碧い琵琶湖 代表理事

余呉町生まれ。幼少のころから余呉湖・琵琶湖をフィールドに魚や水鳥の研究・自然保護活動に関わる。国交省淀川水系流域委員会委員、NPO職員、大工見習等を経て、2009年から現職。私たちの価値観を変え、住まい・買い物・仕事など日々の「暮らし」を変え、物やお金や情報の流れを変えることから、豊かな水環境の再生に寄与していきたいと考えています。



徳島 英和(とくしま ひでかず)さん / 滋賀県 河港課長



小学生の時、新海浜で水泳と伴にシジミ(翌日のみそ汁)をよく捕りました。川での貴重な体験を通して、川のタカラモノを再発見し、皆様と伴に感性を磨き、川とのいい関係づくりのきっかけとしていきたいと思えます。

全体討論

大橋 正光（おおはし まさみつ）さん / 半鐘の会

1942 年生まれ。平成 20 年、滋賀県が県民から 10 名の委員を公募して設置した流域治水検討委員会（住民会議）の座長として、提言「水害から命を守る滋賀県民宣言」のとりまとめに尽力した。滋賀県における流域治水対策・川の未来づくりに取り組んでいる。



栗原 秀人（くりはら ひでと）さん / NPO 法人 21 世紀水倶楽部 理事



1951 年長野県安曇野生まれ。75 年建設省入省、主に下水道事業に従事し、全国各地の水質保全に関係する。また、東北地方建設局湯沢工事事務所長（雄物川）、関東地方整備局京浜工事事務所長（多摩川、鶴見川等）、滋賀県土木交通部長（琵琶湖等）も歴任。川に集う市民たちと現場で交流し、多くを学ばせてもらう。「人・川・街」のいい関係の再構築をライフワークとしていきたい。

久世 憲志（くぜ のりゆき）さん / 川づくり会議みえ

1954 年生まれ。三重県津市在住。小学生の時、ドジョウをエサにウナギが釣れたときの感動が今も忘れられない。川づくり会議みえに事務局として参加。これまで、隔年で 4 回開催した「川のワークショップみえ」を含め、延べ 45 回の勉強会を開催。これからも、山～川～海のつながりと、人々の立場を超えたつながりを大切にしていきたい。



齒黒 恵子（はぐろ けいこ）さん / NPO 法人 蒲生野考現倶楽部

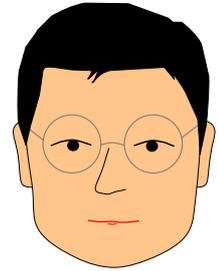


高度経済成長に伴い、物の豊かさ、便利さと引き換えに、豊かな自然や人情など失ったがものが数多くあることに気づき「NPO 法人蒲生野考現倶楽部」で活動を始めて 11 年、身近な流域で「生態系の調査や保全活動」「自然再生への挑戦」「人と自然・人と人とのつながりを取り戻そうとする活動」など、それぞれの活動を通じて得られた共通の事柄は新しい発見と仲間が出来、次世代の子どもたちにも伝えることが大切と考えている。

総合コーディネーター

福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）さん / NPO法人 近畿水の塾 理事長

京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・（独）都市再生機構）に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計業務に従事。現職は（財）住宅管理協会関西支部。自然復元系や参加型の仕事に関心がある。三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、自然との付き合い。人との付き合い。地域。時間。信頼型社会の復活。



コメンテーター

嘉田 由紀子（かた ゆきこ）さん / 滋賀県 知事



埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程（農村社会学）修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

片寄 俊秀（かたよせ としひで）さん / 大阪人間科学大学 教授

1938年生まれ。環境芸術家、まちづくりプランナー、花鳥風月のまちづくり研究所・まちづくり道場主などを勝手に名乗るが、要は水辺と下町の同時的再生こそが人類の明日に、ほのかなく希望ををもたらすと信じ行動する「川じじ」。技術士・工学博士。著書『まちづくり道場へようこそ』、『いい川・いい川づくり最前線』（共著）、『いいまちづくりが防災の基本』。



6) 実行委員会

実行委員長

北井 香(きたい かおり) / NPO法人木野環境



奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は京都のNPO法人 木野環境に所属。「持続可能な社会をつくる」という理念に沿えば何でもテーマになる団体で、ここ数年は滋賀県の棚田保全活動に携わる。昨年、流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

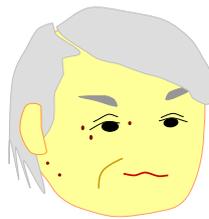
実行委員会



大橋正光さん



杉本良作さん



松尾則長さん



中井正子さん



柴田善秀さん



石津文雄さん



齒黒恵子さん



成宮純一さん



中村誠伺さん



多々納裕一さん

実行委員会は、復活選考の選考に加わっています。

7) 参加団体の活動紹介

団体名：琵琶湖河川レンジャー有志【A - 1】

活動概要：環境保全と環境学習および景観など保全・継承活動

川や水辺の名称：琵琶湖とその周辺河川

発表内容：

琵琶湖河川レンジャーは、現在 4 名が活動しています。琵琶湖およびその周辺で、川に関する地域の方々の思いや、事業を行う行政の声を引き出し、それらをつなぐ調整役をしています。各レンジャーの、それぞれの活動テーマです。

木村レンジャー：

- 1．人々が集う魅力的な川と川辺に
- 2．住民の皆さんとの信頼関係づくり

多くの住民が瀬田川・大戸川・長沢川をはじめ県下の川に親しみ 感じるようになる活動。瀬田川のまわりでのネットワーク（協力体制）づくりなどの活動をしています。

佐々木レンジャー：

- 1．思い出づくりから始める 川と住民との関わり
- 2．田上砂防堰堤群の魅力を住民へつなぐ

1の実践として「洗堰レトロカフェ」を開催しています。

平山レンジャー：

- 1．「川への想いを共有する」「課題にむけて連携する」ための場のコーディネート

意見交換会や協働イベントの開催により、住民と行政が出会い、話す、共に汗をかく場を調整し実現します。

伊東レンジャー：

2010年10月任命され、活動をスタートしました。



団体名：^{はりえしやうず さと}針江生水の郷委員会【A - 2】

活動概要：環境保全と環境学習および景観など保全・継承活動

川や水辺の名称：針江大川（高島市新旭町針江付近）

発表内容：

2004年正月にNHKハイビジョン番組で「里山命めぐる水辺」の放送以来、湖西の片田舎に方々から見学者が訪れることとなった。おりしも全国的に児童を狙った誘拐事件が数多く伝えられている最中であり、当地区に於いても未遂事件が発生しました。こんなことから住民にとっては見ず知らず人々が区内を散策されるのを不安感一杯で見守るしかないのかと思っていました。そんな中、住民の生命・財産は自分たちの手で守ろうと立ち上がったのが針江生水の郷委員会です。

見学者の案内を日常業務としながら、針江大川や河口付近の清掃保全、竹林整備、ピワ湖岸の葦原保全など多岐にわたり活動を展開しています。8年目を迎え、一層磨きを掛けようと新たな取り組みに着手しています。

祖先から引き継いだ豊かな自然と水文化。このかけがいのない水と自然と人の“つながり”をいつまでも守り続け、多くの人たちに受け継いでいきたいと思えます。



団体名：^{そまがわ}杣川と親しむ会【A - 3】

活動概要：河川敷等の清掃活動

川や水辺の名称：杣川（甲賀市甲賀町・甲南町・水口町の杣川沿い）

発表内容：

「杣川と親しむ会」は、杣川の治水・利水・水環境を周辺環境との調和を図りながら守り育てていく為に、杣川での遊びや学びを通して、杣川と親しむ事業を推進することを活動の目的としています。

主な活動は、毎年鈴鹿山脈の油日岳に登る「杣川の源流を訪ねて」を企画しています。杣川の源流を確認し、美しい水を守るためには何が大切かを学び、山登りを楽しみながらゴミを拾う活動もしています。

また、「川をきれいにしたい・自然を取り戻したい」そのような思いで杣川沿いを歩きながらゴミを拾う「杣川ウオーク&クリーン作戦」を地域住民と共にしています。

「川はゴミ箱じゃない」と訴え、このゴミ拾い活動を繰り返し実施することが大切であることをアピールしたいと思っています。



団体名：大沢いきいき郷づくり委員会【A - 4】

活動概要：大沢町自治会および大沢いきいき郷づくり委員会が実施している活動

川や水辺の名称：八楽溜（はちらくだめ）（東近江市大沢町 付近）

発表内容：

八楽溜は、江戸時代初期に、住民の願いにより、彦根藩によって築造され、約400年にわたって集落の田畑に水を送り続けてきたが、住民もこの溜池を補修作業をして大切に守ってきた。

大沢町内の水田には、永源寺ダムからの送水だけでなく、農地の約20%にあたる10ヘクタールに八楽溜の水が今も使われており、パイプラインで町内の消火栓にも溜池の水が送られている。

江戸時代から、八楽溜では伝統漁法のオオギ漁が4年に一度行われていたが、平成10年からは、郷づくり委員会が、地域活性化と伝統漁法を守ることを目的に、オオギ漁を復活させている。

大沢町自治会では、年に6回、住民総出で八楽溜の環境整備作業を行っているほか、春には、堤の桜並木にぼんぼりをつけるなどして、桜の名所として近郷の人たちも多く訪れている。

八楽溜を中心とした地域での活動の様子を劇にして、大津市で開かれた世界湖沼会議などの機会に、住民の出演で発表している。

このような活動が認められ、平成22年、「日本のため池百選」に選ばれた。



団体名：淀大下津町自治会【A - 5】

活動概要：子ども達に小さいころの思い出づくりと伝統の引継ぎの大切さを教える

川や水辺の名称：桂川（京都市伏見区大下津町付近）

発表内容：

6年前に45年間途絶えていた「どんど」を復活して欲しいという話が持ち上がり、住民有志が集まり、当時の作り方を年配の指導を受けて、みごと復活できました。河川敷のヨシと竹で組み合わせ、高さ15m、幅4mのみごとな「どんど」が完成し、老若男女が楽しく過ごせた。今後も続けて行きたい。



団体名：巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会【A - 6】

活動概要：巨木や豊かな森を守り育て、山里の発展とともに次世代に引き継いでいく

川や水辺の名称：安曇川支流の北川および針畑川の源流

発表内容：

安曇川源流の巨樹・巨木林を取り巻く現状

トチ餅などの文化を背景として残されてきた巨樹・巨木林と、山里の衰退や森林所有者の山離れとともに、巨木の買い付けおよび伐採が進行した状況

会の立ち上げとこれまでの活動

森林や山里の荒廃に危機感をいだいた地元住民による会の立ち上げ

巨木の調査、巨木観察イベント、森林所有者への働きかけ、巨木伐採のストップ

今後の活動と課題

巨木や豊かな森を守り育てながら山里を発展させていくために



団体名：川チャリ隊【A - 7】

活動概要：県土木職員の自発的な現地調査 - “川のキモチ、流域の風土を感じたい！” -

川や水辺の名称：滋賀県に流れる川、全部！

発表内容：

五感で、県土を体感する調査。

川チャリ調査内容・・・かたつくらしい調査ではありません。

河川環境調査（見る、聞く、触れる、臭く）

生物多様性、希少種・外来種などの分布状況、瀬・淵の状況、樹林化・陸地化の状況、親水公園などの利用状況

河川堤防調査（見る）

護岸や堤防の現状・損傷有無、霞堤などの不連続堤防の状況

氾らん原調査（見る、聞く）

河川とまちなみの関係、土地利用の現状、連続盛土の状況（JR線盛土、道路盛土）

人とのふれあい調査（見る、聞く、食べる）

県民のみなさんの“ほんまもんのニーズ”を体感（バッジを付けず、普段着での立ち話し）特産物・名物の再認識

これまでの川チャリ履歴

H22.12月（西ノ湖・蛇砂川）、H22.11月（高時川）、

H22.10月（姉川）、H22.8月（愛知川）、H22.5月（鴨川・八田川・青井川）、

H22.2月（佐久良川・日野川・祖父川）、H21.11月（安曇川）、H21.11月（安曇川）、

H21.10月（野洲川上流）、H21.2月（葉山川他（草津市・栗東市域））、

H21.1月（大戸川）、H20.5月（平田川・野瀬川）、H20.4月（日野川）、

H19.12月（犬上川）、H19.11月（余呉川）、H19.10月（天野川）、H19.10月（芹川）



団体名：NPO法人リバブレ隊【B - 1】

活動概要：滋賀県で推進されているエコフォスター制度参加、4年半経過

川や水辺の名称：高橋川（大津市神領建部大社付近）

発表内容：

高橋川河川清掃活動（エコフォスター）報告

相変わらずの小さな河川清掃活動ですが継続は力なりの精神で活動しています。特に、

行政との連携 大津土木事務所との連携活動

河川の近郊にある瀬田南小学校にポイ捨て禁止のポスター作成依頼をして、河川フェンスに取り付け啓発活動に努めた。学校より5年生を対象にボランティアトークを依頼され、11/5に実施。子ども達より感想文をもらった。



団体名：白鳥川の景観を良くする会【B - 2】

活動概要：白鳥川流域の環境整備と自然再生活動

川や水辺の名称：白鳥川（JR線～びわ湖河口付近） 藤間川（医療センター～白鳥川合流点）
（近江八幡市 白鳥・堀上・土田・小舟木町 付近）

発表内容：

白鳥川流域の環境整備と自然再生で「景観の向上」と「市民の憩いの場づくり」活動

(1)景観隊発足の経過 ごみの多い白鳥川流域、発足：2006年2月15日（水）15名参加。

(2)活動内容 月2回（第1・第3水曜日 9:00～12:00）、ごみ拾い、除草、苗木や花植栽と管理。

(3)活動エリア 白鳥川・約5km（JR線～びわ湖河口付近）、藤間川・約1km（医療センター～合流点）

(4)5年間の実績 計116回活動（ごみ回収約10ト、除草約56千m（面積甲子園分）、5km桜並木づくり）。

(5)5年間の参加人数 約3300人（1年目669人、2年607人、3年725人、4年697人、5年620名+2～3月分）。

(6)5年目の新活動 地元小学校・5年生の環境学習（5回）に連携協力（桐原東小学校、滋賀県、景観隊）。

(7)今後の計画 定例活動の継続、市民憩いの場づくり、環境学習の取組校増加、他。

(8)今後の課題 作業関連機器の増強、メンバーの増強化、安定した活動経費の確保。



団体名：桜谷エコクラブ【B - 3】

活動概要：地域の調査活動 環境学習

川や水辺の名称：日野川支流 佐久良川（日野町 川原地区及び中之郷地区 付近）

発表内容：

【活動テーマ】桜谷の田や川は命のゆりかご

【活動内容】農業水路は、田と魚をつなぐ命のゆりかごです。桜谷小学校は毎年5年生になると、川原地区のため池と田んぼの学習、佐久良川と日野川の学習、琵琶湖の学習をします。

5月の田植え田では、田の生き物調査とフナとモロコの稚魚の放流をしました。大きくなった頃、魚は水路を伝って、横にある池（庵用津大溜）に入ります。さらに大きくなって、川に流れ、琵琶湖へと流れていきます。

【発表内容】田や池・川は、生き物が育つ場所です。観察したことや五感で感じたこと、話を聞いて思ったことなどを報告し、命のゆりかごの里「桜谷」のすばらしさを伝えたいと思います。



団体名：山内エコクラブ【B - 4】

活動概要：地域の調査活動 環境学習

川や水辺の名称：野洲川（甲賀市土山町山内地区 付近）

発表内容：

【活動テーマ】源流の水文化を狂言で伝えよう

【活動内容】琵琶湖に注ぐ野洲川の水は、鈴鹿山脈より流れ出る清水からなります。私たちは、野洲川の上流部に位置する山内地域の川の水と生物や人がどのように関わっているのかを調べてきました。

去年は、ジャンボ絵本「鈴鹿物語」にまとめました。今年は、山内の人々が水源としての山と水をどのように捉えてきたかを調べました。そして、絵巻物「野洲川物語」と狂言「鈴鹿の小天狗」にまとめました。鈴鹿の小天狗は地域に伝わる鈴鹿姫と天狗の物語で、狂言師に指導を仰ぎ、練習を積み重ねてきました。

【発表内容】狂言「鈴鹿の子天狗」を多くの人に伝え、里山の水文化について考えます。



団体名：長浜土木事務所、畜産技術振興センター、河港課【B - 5】

活動概要：ヒツジを仲間に入れた河川環境保全への取り組み

川や水辺の名称：長浜新川（一級河川）

発表内容：

「活動テーマ」

川と人・地域とのつながりを取り戻すきっかけづくり

「活動内容」

ヒツジを仲間に入れた河川環境保全への取り組み

河川敷に繁茂している草をヒツジに食べてもらうことにより、動物や水辺とふれあいながら河川環境の保全ができないかを検討するため、ヒツジ5頭を1週間河川敷に放牧した。

「発表内容」

ヒツジ5頭、1週間の放牧実験の結果

「ふれあいイベント」への応募状況からみた地域住民の反応（実際は台風接近のため中止）

イベント開催に向けての関係機関との連携状況



団体名：湖南 企業いきもの応援団【B - 6】

活動概要：水質、いきもの調査

川や水辺の名称：狼川（草津市）

発表内容：

『湖南 企業いきもの応援団』は、滋賀経済同友会の会員企業の中で湖南地域に拠点を置く11社を中心に、草津市、滋賀県立琵琶湖博物館の協力を得ながら、狼川の上流から下流にかけて設けられた6ポイントの調査地を、各企業が分担して担当し、年4回、水質およびいきもの調査を行っています。

いかに企業が生物多様性保全・再生に取り組んでいくかという課題の中、「まずは、できることから始めよう」と、様々な業種の企業が集まりスタートしましたが、実際にフィールドに出て初めて見えてきた、企業活動（本業）におけるヒントや可能性、課題等が多くあります。生きた川の姿を把握し、地域に成果を還元し、生物多様性保全・再生に貢献するとともに、地域にあり続ける「企業」として果たしていける役割を考えていきたいと思ひます。



団体名：親水公園づくり検討委員会【C - 1】

活動概要：自治会活動および親水公園づくり

川や水辺の名称：愛知川に流れ込む小川（集落を流れる河川）（東近江市五智町付近）

発表内容：

・はじめに

私達の町も少子化、高齢化が進み、自治会活動に支障がでてきました。

私達は住みよい町造り、町民が楽しく暮らせる町づくりに取り組んでいます。

親水公園を中心としてお年よりや児童達が交流し、あわせて町民交流を図る中から町民の意思疎通を図り、この町に住んで良かったと、語り合える町づくりに努めています。

・発表のポイント

- ・親水公園づくりに取り組んだ背景
- ・親水公園づくりの経過と課題、反省点について
- ・これからの維持、管理、運用について
- ・私達が目指すもの



団体名：こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！【C - 2】

活動概要：こなん水環境フォーラムの開催

川や水辺の名称：琵琶湖 および 草津市・守山市・栗東市・野洲市内外の河川等

発表内容：

子どもたちに地域の環境や琵琶湖の良さを伝えたいと、自主的にホテルやヨシの再生、魚の放流、環境学習に取り組んでいる方々が地域にはたくさんおられます。

このような活動をもっと広く伝え、多くの人たちが環境保全に関心を持って、行動に移していただけるように、住民、企業、行政が協働で「こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！」（主催：湖南流域環境保全協議会）を開催しました。このフォーラムにより、みんなの活動がより活発になり、団体同士の新たな協働事業なども生まれました。

今年度も3月に開催を予定しており、より多くのNPO団体の出展、県民の方々の参加、そして新たなつながりが生まれることを期待しています。



団体名：NPO法人 自然の恵み【C - 3】

活動概要：環境保全ビジネスモデル事業の構築及び森里海連環学の体験学習他

川や水辺の名称：安曇川、愛知川、家棟川、彦根城の堀、県立大学内の水路、田畑の水路
高島市安曇川町 生きもの田んぼ米生産圃場水路 他

発表内容：

放置竹林を廃材から資源へと活用したビジネスモデル事業の構築

近年、社会問題になっている放置竹林伐採で出た廃材を炭化して竹炭に加工。

その後、クエン酸と鉄粉を混ぜた微生物活性を促す水質浄化土壌改良剤「チャコールアイロン」を製作。

「チャコールアイロン」を、田畑や水路、河川に使用してフルボ酸鉄が豊富な水を作り、水の道筋整備を実施。無農薬で安全な米や作物、果樹などの農作物や、ヘドロを分解、水質浄化してシジミや淡水真珠の再生に活用しブランド化した農水産物を創出。生産者の不得意な販売促進計画までも提案して売り上げを確保致します。

また、「チャコールアイロン」の収益金は、NPOの活動資金や商材製造関係者の雇用、福祉施設作業所などへ作業依頼を行う経費として使用致します。

山から琵琶湖までの環境保全事業の一環として放置竹林を活用したビジネスモデル事業の構想を発表致します。



団体名：杉野川地域づくり協議会【C - 4】

活動概要：地域づくり，都市農村交流，次世代交流

川や水辺の名称：杉野川（長浜市木之本町 金居原～音羽 付近）

発表内容：

川づくりとは少し違いますが、流域の集落が一つとなって取り組んでいる活動について発表します。

私たちの住む“杉野学区”は少子高齢化等の問題を抱えていますが、現状に悲観するのではなく「自分たちにはできないことはないか」と考え、杉野川流域にある4集落が1つになって活動を始めました。杉野地域にある豊かな自然や誇りにできる文化を都市住民や次世代に伝えていきたいという想いで活動しており、具体的には蛭観祭会、農園活動、古民家改修活動といった様々な取り組みを行っています。それぞれの立場にこだわらず、杉野川という一本の柱を中心にしてそれぞれが役割を果たしていくことで“みどり豊かな清流の郷杉野”を次世代につなげていきたいと思ひます。



団体名：“ 智恵だし汗かき隊 ” 水害出前講座班【C - 5】

活動概要：総合的な学習を通じた地域防災力の向上

- 川をとりまく多面的な関係性の体感的学習！

川や水辺の名称：白鳥川（近江八幡市 馬淵小学校、桐原小学校附近）

発表内容：

水害に関する地域防災力の向上を図るため、小学校の総合的な学習の時間を活用し、自然環境や地域文化に関連付けながら、地域の水害特性とその対処法を学んでもらうことを試みました。

具体的には、小学校4年生あるいは5年生の児童を対象に、河川での生きもの調査、川と地域の関わり（河川の形状や集落の配置の背景、水害履歴など）、通学路の危険箇所調査、子どもハザードマップづくり、水害体験者のお話、という順で2週間おきに5回連続の学習を行います（一回あたり2時限、計10時限）。

川で楽しむことをきっかけに川への興味をかきたて、水利用や水害も含めた川と地域との関わりの学習を経て、積極的な学習姿勢を引き出すことを狙った構成です！

学習後半の児童たちの言動や、事後アンケートの結果から、児童が、日常生活（通学時など）において、自発的に水害を意識する傾向が顕著に確認されました。ここから、“自然環境、暮らしや文化と水害の多面的な関係性を、体験的に学習させる取り組み”が、水害に関する地域防災力の向上に大きく寄与することが示唆されました。防災と言わない防災、楽しい防災、生活防災のひとつの兆しを見つけることができました！



団体名：TANAKAMIこども環境クラブ【C - 6】

活動概要：子ども達による環境調査と河川環境保全活動

川や水辺の名称：大戸川・天神川（大津市田上学区）

発表内容：

「活動テーマ」

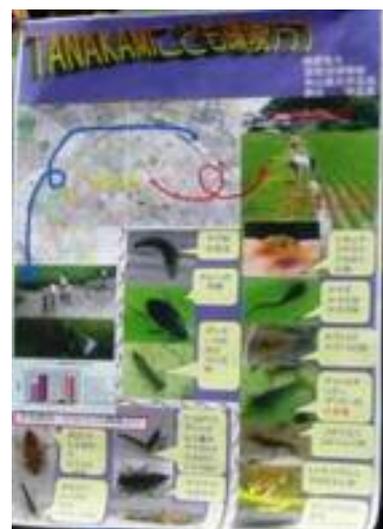
- ・生物多様性の保全を目指した環境調査による環境保全意識の確立と向上。
- ・自然体験活動を通して地域の教育力を育成する。

「活動内容」

- ・環境調査（4月から12月くらいにかけて、月1回くらいのペースで行う。）
- ・自然体験活動（夏休みにおこなう川での水遊び、自然物を使って工作や食べ物づくり。）

「発表内容」

- ・環境調査の結果と河川のこれからのあり方。
- ・自然体験活動の感想と私たち（小・中学生）の考え。



団体名：NPO法人蒲生野考現倶楽部【C - 7】

活動概要：水環境（川での遊び、生き物調べ）

川や水辺の名称：佐久良川（日野川支流）（日野町 川原集落付近 ～ 東近江市 蒲生支所横）

発表内容：

蒲生野考現倶楽部では、「たんけん、はっけん、ほっとけん」を合言葉に、子どもと親、お年寄りの3世代一緒に、佐久良川を拠点とした、身近な水辺での遊びの中で、「米作り体験」、「ホタル観賞会」、「かいどり大作戦」、「みぞっこ探検」、「モニタリングサイト1000 里地調査」を実施し、自然体験や観察、調査などを行いました。

さらに、本年度は琵琶湖、宇治川、桂川、木津川、淀川、猪名川、大和川など、2府4県に亘る琵琶湖・淀川水系全域及び大阪湾で、自然体験や清掃活動などを行い、琵琶湖・淀川水系で活動している他団体との交流も深めました。

地域の自然や文化に触れる体験活動に参加した子ども達の成長ぶりをみてください。



淡海の川づくりフォーラムに関するお問い合わせ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局

（滋賀県土木交通部流域治水政策室内）担当：西山・瀧

電話：077-528-4291 FAX：077-528-4913

電子メール：forum@shiga-rivers.com